

学生番号 137g8804 氏 名 笠野 由衣

## 修士論文（又は特定課題研究）要旨 （日本語）

### 題 目

内省を促す自己評価表および共有システムの提案  
ー国際交流事業におけるコーディネーターの振り返りー

### 要 旨

日本における国際協力の最前線で活躍するコーディネーター（以下、CDN）は、その分野と業務の特異性から、今までにも CDN の育成・能力強化のために様々な研修や評価制度構築等の取り組みが行われてきた。しかし、業務に係るノウハウやコツの多くは依然として CDN 個人の中に暗黙知として蓄積されたままであり、特に、CDN が多くの登録 CDN を抱える国際協力団体（以下、団体）にとって非育成対象である個人事業主として国際協力事業に携わるようになった昨今、CDN の全体的な能力の向上・維持と知見の蓄積が団体の大きな課題となっている。

本研究では、CDN が団体にとって非育成対象であることを踏まえ、CDN の能力向上・維持という最終目標に向かう第一段階として、CDN の内省と CDN 自身による業務改善の促進を目指した。まず、国際交流事業に携わる CDN が実施している自己評価表に着目し、CDN に自己評価表に関する意識調査を行い、CDN が業務の振り返りそのものを意欲的に行っているかどうかという観点から、ケラーの ARCS モデルに基づく検証を行った。次に、これらの結果から、CDN が内省を深め意欲的に業務改善に向かうための自己評価表を考案し、ベテラン CDN らによる専門家レビューと修正を経て実際の国際交流プログラムに従事した CDN41 名を対象に試行を行った。さらに、自己評価表では網羅できなかった知見の蓄積を可能にする情報共有システムを開発し、自己評価表と情報共有システムそれぞれについて形成的評価を実施した。形成的評価の結果、自己評価表については、具体的な行動モデルを提示し業務前後で詳細な場面を想起させることが内省の深化及び次回業

務への意欲向上に有効であることが示され、情報共有システムについても概ね高い評価が得られた。しかし、CDN の熟達度によってその有効性に差が生じることが明らかになった。

今後の課題としては、本研究で対象にならなかった言語での検証、いかなる熟達度合いの CDN でも同様の効果が得られる自己評価表の開発、継続した取り組みが業務改善や能力向上に与える影響についての検証、情報共有システムのコンテンツの充実化に向けた検討が挙げられる。